

東京国立博物館 ニュース

2004

11 12

月号

中国国宝展 2

平常展見どころ案内 2004年11・12月

国宝 鳥獣人物戯画卷 4

特集陳列 高貴寺所蔵 慈雲の書 5

特集陳列 五十嵐派の蒔絵 6

鷹見泉石像 / 華嚴宗祖師絵伝 元暁絵 / 特集陳列「元祿時代と忠臣蔵」 /

特集陳列「装飾須恵器の世界」 / 特集陳列「中国書画精華」など 7 9

はくぶつかん散歩 9

親と子のギャラリー / 高校生講座 10

金堂平成大修理記念

唐招提寺展 国宝 鑑真和上像と盧舎那仏 11

ようこそ! 博物館の舞台裏へ 本館リニューアルの400日 12

INFORMATION コンサート・庭園開放 14

TOPICS / Who's Who in 東博 15

2004年11・12月の展示・催し物 16



中国国宝展

中国文化の真髄を一堂に集め、大好評の中国国宝展。日本初公開の作品も数多く登場する「考古学の新発見」のコーナーに焦点を当ててご案内します。

11月28日(日)まで、「中国国宝展」を開催しています。二〇〇〇年に開催し好評を博した「中国国宝展」は考古遺物を中心とした展覧会でしたが、今回は、考古学の新発見(七十件)と「仏教美術」(九十四件)の二本立ての構成です。「仏教美術」については前号で紹介しましたので、本号では、考古学の新発見について紹介します。このコーナーでは、一九九〇年代以降の出土品を中心に、各時代の優品を展示します。



文官俑 秦時代・紀元前三世紀
陝西省西安市秦始皇帝陵出土 高1.82m
秦始皇兵马俑博物館蔵
細面でややつりあがった眼。能吏にも見える

■新石器時代後期から戦国時代

中国の新石器時代後期(紀元前五〇〇〇〜紀元前一〇〇〇年頃)には、玉器が発達しました。一九九八年に凌家灘遺跡で発見された玉人(写真)は、手を揃えて胸の前に挙げており、神に祈る姿勢と想像されます。中国の新石器時代人の



玉人 新石器時代・起元前三五〇〇年頃
安徽省含山県凌家灘遺跡出土 高8.6cm
安徽省文物考古研究所蔵
髪を結び、耳飾をつける。宗教的指導者の像である

姿を伝える珍しい作品です。

中国では紀元前一二〇〇〇年ころから青銅器の制作が始まりました。特に商(紀元前十六世紀頃〜紀元前十一世紀)、西周(紀元前十一世紀〜紀元前八世紀)の時代には、青銅器がさかんに制作されました。本展覧会でも近年出土の優品を展示しています。

遼盤(迷盤)
西周時代・紀元前8世紀 陝西省宝鸡市眉縣楊家村出土 口径53.6cm
宝鸡青銅器博物館蔵
1949年の中華人民共和国成立後に出土した青銅器では、銘文が最も長い

なかでも注目いただきたいのが、二〇〇三年、つまり昨年の一月に発見された楊家村の青銅器です。農民五人がレンガの原料とするため土を掘っていたところ、崩れずに残っていた古代のあなぐらを発見しました。あなぐらには二十七個の青銅器が納められていましたが、五人は青銅器に手をつけずただちに役所に連絡しました。近年、中国では埋蔵文化財の盗掘や私物化が問題となっています。この五人は正直に役所に届けたのが偉いということで表彰され、多額の報奨金を受け取ったそうです。発見された青銅器は学術的にも

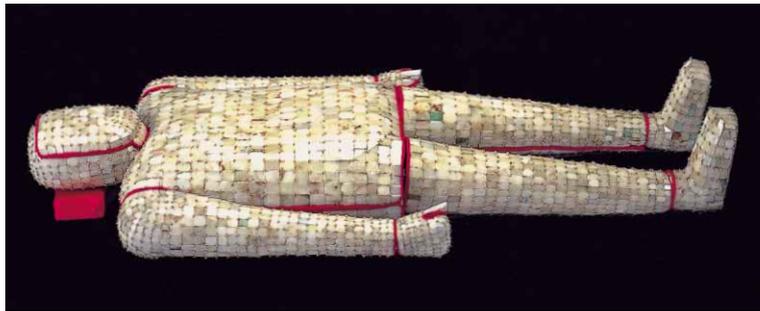


羽人(部分) 戦国時代・紀元前4世紀
湖北省荊州市天星觀2号墓 現総高73cm
荊州博物館蔵
人間と鳥を合体させた羽人。楚国の神話を背景に作られた像と想像される

大変な価値をもつものでした。遼盤(写真)には三百七十字の銘文があり、遼という人物が作らせたものであることが分かりました。銘文には、文王、武王以下、西周の歴代の王の名と、それに仕えた遼の先祖の名前が記してありました。この盤は西周の歴史を研究する上で第一級の資料として、世界的な注目を集めています。なお、この盤を作らせた人物の名ははじめ遼と紹介されましたが、今回の展覧会ではその後の研究成果に基づいて遼として

います。この遼盤のほか、遼の功績を二百八十字の銘文で記した四十二年遼鼎を含め、楊家村出土青銅器を七点展示します。

戦国時代になると、長江流域の楚の国では漆器が発達しました。二〇〇〇年に発見された木製漆塗りの羽人という作品(写真)は、獣形の台座のうえに翼を広げた鳥が乗り、その上に人と鳥を合体させた像(羽人)が乗るといふ面白いものです。



金縷玉衣
前漢時代・紀元前2世紀 江蘇省徐州市獅子山楚王陵出土 長170cm 徐州博物館蔵
玉片は四千余片。眼、鼻、口、乳房も玉で表されている

秦時代から唐時代

紀元前二二一年に秦の始皇帝が、黄河、長江流域の平野部を政治的に統一しました。始皇帝を葬った始皇帝陵(紀元前二一〇年)に有名な兵馬俑坑が発見され、世界を驚かせましたが、近年は兵士や馬以外の俑も出土しています。二〇〇一年に発見された文官俑(写真)もその一つで、冠まで含めた高さはメートル八十二センチもあります。始皇帝陵の俑というと灰色のやきものというイメージをおもちかもしれませんが、実はみな鮮やかな色が塗られています。近年、彩色を保った状態で俑を発掘する技術が開発され、このように色を保った俑を展示することができるようになりました。このほか、サーカスの芸人と思われる俑

や、舟を漕いでいるような姿勢の俑など、始皇帝陵で新たに発見された俑を展示します。
秦の滅亡後、中国を統一した漢王朝(紀元前二〇六〜二〇一年)の皇帝陵は、調査があまり進んでいませんが、「王」と呼ばれた身分の高い皇族の墓には本格的な調査が行われたものがあります。一九九四年から九五一年にかけて調査された獅子山楚王陵

では、玉片を金の針金で綴った金縷玉衣(写真)が発見されました。玉は遺体の腐敗を防ぐと信じられ、こうした玉衣を制作して王の遺体に着せたのです。この玉衣はこれまで発見された同種のものなかでも、玉が格段に美しいと中国の専門家も認めているものです。

唐時代(六一八〜九〇七年)の中国



天王俑
唐時代・8世紀 陝西省西安市出土 高49.5cm
西安市文物保護考古所蔵
これほど色彩がよく残っているのは珍しい。
日本古代の仏教美術の研究にも参考となる資料

では、華やかな文化が栄えました。二〇〇二年に西安市で発見された天王俑(写真)には、鮮やかな彩色が残っていました。遣唐使や留学生がみた当時の唐文化が偲ばれます。
このほかに興味深い作品が多く、到底紹介しきれませんが、ぜひとも会場でご覧ください。

(谷 豊信)

東洋館で見る中国仏教美術 宝慶寺石仏群一〇〇年ぶりの再会

現在開催中の中国国宝展では、中国各省から集めた数多くの文物が展示されています。これに関連する作品を皆様にご紹介するとなれば、宝慶寺石仏群よりほかにありません。東洋館には合計十七点がずらりと並んでいます。中国国宝展にも宝慶寺ゆかりの如来三尊坐像(作品No.119)が展示されています。これらはともに、長安城内の光宅寺に安置されていたもので、後の世に宝慶寺に移されたことからその名があります。

す。制作には中国唯一の女帝、武则天(則天武后・在位六九〇〜七〇五)も関わりをもったことがわかっています。中国国宝展に出品される作品は、一部の本で紹介されたことがありますが、長い間、博物館の裏手で保管され、観客の目に触れることがありませんでした。東博所蔵の作品とは約一〇〇年ぶりに上野で再会を果たすこととなります。

(小泉重英)

「中国国宝展」

9月28日(火)~11月28日(日) 東京国立博物館 平成館

主催:東京国立博物館 朝日新聞社 テレビ朝日
中国国家文物局 中国国家博物館(中国文物交流中心)
後援:外務省 文化庁 中国大使館(社)日中友好協会 人民日報社
協賛:トヨタ自動車株式会社 凸版印刷株式会社 松下電器産業株式会社
東日本旅客鉄道株式会社

協力:講談社 小学館 ニッセイ同和損害保険 全日空
観覧料:一般1300円(1100円/1000円) 高校・大学生900円(800円/700円)
小・中学生 無料

* ()内は、前売り/20名以上の団体料金

* 障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください

巡回予定

2005年1月18日(火)~3月27日(日) 大阪中之島・国立国際美術館(新館)

躍動する描線から鳥獣たちが踊りだす

国宝 鳥獣人物戯画卷 甲巻

10月13日(水)・11月21日(日) 本館2室 国宝室



●鳥獣人物戯画卷 甲巻(部分)
平安時代・12世紀 京都・高山寺蔵 宮中行事の相撲節(すまいのせち)のパロディーでしょうか

相撲の執戦のすえ、すつてんと投げを打たれて天を仰ぐ兎。勝った蛙は、どんなもんだい、とばかりにポーズを決めて、勝利の雄叫びをあげています。応援の蛙たちは、踊りだし、笑いこぼして大喝采。よくみれば、負けた兎も舌を出し、照れかしくしなやかな苦笑い。くつたくのない彼らの楽しそうな賑わいが、草むらから響いてくるようです。

明恵上人ゆかりの京都・高山寺に伝来した「鳥獣人物戯画卷」は、内容・制作年代のことなる四巻からなっています。その中でもっとも古いこの甲巻は、擬人化した鳥獣を生き生きとユーモラスに描く逸品として、ひろく親しまれている一巻です。

画面狭しと、遊戯や行事のまねごとをくりひろげる鳥獣たちは、思い切った、しかも的確な描線で描き出されています。その冴えわたるテッサン力には、みるほどに、引き込まれるばかりです。するどい動物観察の眼と、熟練した筆づかい、そして懐ふかいユーモアの精神が、時をこえて私たちを魅了するのでしょうか。

甲巻が制作された平安時代・十二



●鳥獣人物戯画卷 甲巻(部分) 平安時代・12世紀 京都・高山寺蔵
猿僧正が拝むご本尊はカエル仏!?

世紀の中ころは、麗しい院政期仏画や雅びな絵巻物が大幅の花を咲かせ、また一方では、仏教図像の研究にとりくむ僧侶たちが、厳格な線描表現の世界を切り拓いていた時代でもありました。「鳥獣人物戯画卷」に代表される「戯画」の伝統は、日本絵画の歴史において、脈々と受けつがれて

いきますが、その中でこの甲巻が、たんなる戯画の軽妙さにとどまらぬ雄渾な美に到達できたのは、十二世紀のすぐれた美意識、生けるものへの豊かな共感、その賜物であったといえるでしょう。躍動する描線と愛すべき動物たちの活劇をお楽しみください。
(行徳真一郎)

特集陳列 高貴寺所蔵 慈雲の書

江戸後期の高僧・慈雲尊者の書を通して その生涯と人柄に触れる

11月2日(火)・12月12日(日) 本館特別1室・特別2室

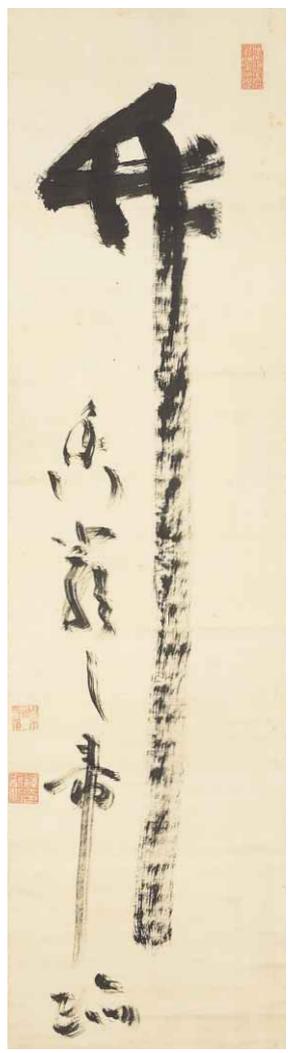
慈雲飲光(一七二八〜一八〇四)は江戸時代後期、京都や大坂で活躍した真言宗の高僧です。慈雲尊者、城尊者と尊称されるほか、双筆叟、城山人などの雅号でも知られます。大坂中之島の高松藩蔵屋敷で生まれ、熱心な仏教信者だった父の死後十三歳の時に出家しました。慈雲は一宗派に拘泥せず、顕教、密教、禅、儒学、神道なども幅広く学んだ結果、仏道の原点に戻ることを目指す正法律を唱えました。十善戒(不殺生、不偷盗、不邪淫、不妄語、不綺語、不悪口、不両舌、不慳貪、不瞋恚、不邪見)の実践を正法律の根幹とし、精力的に布教、著述などをはじめとする宗教活動を実践しました。その正法律の本山となったのが河内(現大阪府)高貴寺でした。慈雲は、自伝の『百不知童子伝』において、書、詩、和歌などの知識の無さを記しています。また、雅号の一つに百不知童子(文字どおり百を知らない子供、つまり、多くのことを知らないという意味)を用いています。実際は大変な博識でした。これらは、慈雲の謙虚な性格を示すもので、博識をひけら

かすことなく、常に謙虚な姿勢で万事にあたった誠実な人柄が慕われ、多くの人々の帰依を受けました。慈雲は、能書としても有名で、その力強くて闊達な書は在世中から高い評価を得ていました。書が残されるためには、大きく三つの要因があります。一つは筆者を尊重してのこと。二つ目は、書かれています内容。三つ目は、美術作品としてすぐれていることです。慈雲は、この三つの要素を併せ持っています。よく「書は人なり」といわれますが、慈雲の書は技巧を超えた高い精神性も感じられ、現代の美意

識からみても注目されるものといえるでしょう。今年には慈雲尊者の没後二〇〇年にあたり、慈雲尊者の遺品は各所に数多く残されており、すでに各地で展覧会が開催されていますが、当館では高貴寺所蔵の作品に限定して特集陳列を企画いたしました。高貴寺には、慈雲自らの著作、寺のため

に書き記した遺墨、肖像画、さらには篤い信仰から後世に寺に奉納されたと思われるものなど、貴重な信仰の所産がまとまって伝来しています。低迷しがちだった江戸時代の仏教界にあつて、独創的な活動を展開し、人々の尊敬を集めた慈雲尊者の生涯と人柄に触れていただければ幸いです。(鳥谷弘幸)

かすことなく、常に謙虚な姿勢で万事にあたった誠実な人柄が慕われ、多くの人々の帰依を受けました。慈雲は、能書としても有名で、その力強くて闊達な書は在世中から高い評価を得ていました。書が残されるためには、大きく三つの要因があります。一つは筆者を尊重してのこと。二つ目は、書かれています内容。三つ目は、美術作品としてすぐれていることです。慈雲は、この三つの要素を併せ持っています。よく「書は人なり」といわれますが、慈雲の書は技巧を超えた高い精神性も感じられ、現代の美意



一行書「松」「竹」「梅」 慈雲筆 江戸時代・18～19世紀 大阪・高貴寺所蔵
力強い筆勢だけでなく、余白の美にも注目

【主な展示作品】

- 慈雲尊者巖上坐禅像 原在中筆 慈雲賛 1幅 江戸時代・天明3年(1783)
 - 両界種子曼荼羅 原在中筆・慈雲筆(種子) 2幅 江戸時代・寛政3年(1791)
 - 梵学津梁総目 雑柱之一 慈雲筆 1冊 江戸時代・18～19世紀
 - 一行書「南無仏」 慈雲筆 1幅 江戸時代・18～19世紀
 - 和歌「名利とは」 慈雲筆 1幅 江戸時代・18～19世紀 ほか
- 全て大阪・高貴寺蔵

関連講演会のお知らせ

11月13日(土) 13時30分～15時(開場13時予定)
「慈雲の生涯と思想」
講師：京都大学名誉教授 上山春平
会場：平成館大講堂
定員：定員380名(当日受付、先着順)
* 聴講無料(ただし当日の入館料は必要です)

特集陳列

五十嵐派の蒔絵

加賀前田家の御用を勤めた
五十嵐派の精緻で格調高い蒔絵

12月14日(火)〜2005年2月13日(日) 本館14室



表紙図版： 秋野蒔絵硯箱 江戸時代・17世紀 個人蔵
五十嵐蒔絵の最高傑作。秋草は五十嵐の最も得意としたモチーフ。菊に金貝、桔梗に螺鈿、女郎花に切金の技法を用いるのが特徴。岩や雲、女郎花に用いられた細かい切金に注目

上： 竹垣秋草蒔絵硯箱 江戸時代・17世紀 個人蔵
ここでも菊、桔梗などの秋草が同様の技法で表されている。竹垣などの籬に秋草を描いた作例も良く見られる

五十嵐とは、室町時代より続いたと伝える蒔絵師の名門です。蒔絵師の系譜については時代が上がるほど不明な点が多く、現在良く知られているその名の多くは、江戸時代中期以降に活躍した人物です。今取り上げる五十嵐と將軍家御用達の幸阿弥だけが、室町時代まで遡る蒔絵師

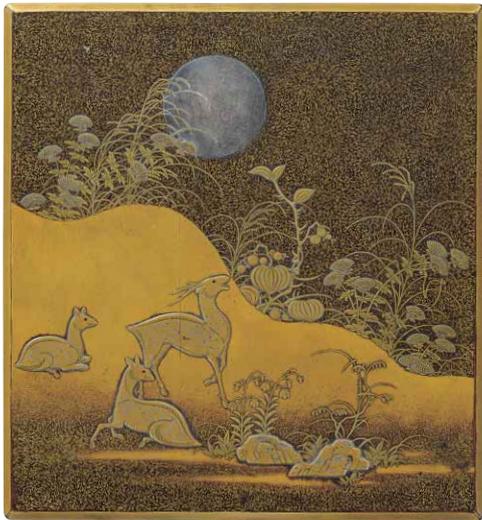
の家系を称しています。勿論こうした家伝の是非は問われなければなりません。残された作品を見ると、それを簡単に作り事と断じるわけにもいかないことがお分かりいただけるでしょう。

五十嵐は、江戸時代には加賀藩主・前田家の御用を勤めたため、現在でも金沢市などの当地には五十嵐派の蒔絵作品が数多く伝えられています。その作風は、室町時代以来の伝統的技術を継承しつつ精緻の度合いを深めたもので、誠に精巧で格調高く蒔絵の正統ともいふべき趣を呈しています。また、金の延板をごく小さな四角に切って貼り付ける切金という技法を駆使したり、文様以外の地の部分に大粒の金粉を時き詰めたりと、質の高い金を惜しみなく使っているのも、五十嵐蒔絵の特徴といえます。しかし、上質の材料と高度な技術が

用いられていても、主張が過ぎず、どこか奥ゆかしい印象なのが五十嵐派作品の魅力です。おそらくこの点が通の好みに適っているのでしょう。古くから数奇者や専門家の間で五十嵐の名声は高く、漆工史研究の上でも注目目的となっています。

江戸時代、この五十嵐の名を世に知らしめたのが五十嵐道甫です。初代の道甫(一六七八)は蒔絵師として京都で活躍しましたが、評判が認められ、前田家に招かれて金沢へ赴き、御用を果したのだといえます。この度の展示では、その道甫の制作と考えられる作品や、彼が仕えた前田家に伝来した蒔絵の品々、あるいは前田家が社寺に寄進を行った際に詠えた箱など、江戸時代前期の五十嵐派の名品が集まります。精細極まる蒔絵の真髄をご堪能ください。

(竹内奈美子)



春日山蒔絵硯箱 室町時代・15世紀
根津美術館蔵(1月16日まで展示)
室町時代の蒔絵を代表する名品。くっきりとした高蒔絵や秋草の表現に、江戸時代五十嵐派作品の源流を見ることができる

【主な展示作品】期間中一部作品の展示替えを行います)

春日山蒔絵硯箱 室町時代・15世紀 根津美術館蔵
(1月16日まで展示)

秋野蒔絵硯箱 江戸時代・17世紀 個人蔵
秋草蒔絵伽羅箱 江戸時代・17世紀 個人蔵
経ヶ島蒔絵硯箱 江戸時代・17世紀 個人蔵
絵替蒔絵絵具筆筒 江戸時代・17世紀 前田育徳会蔵
(1月18日より展示)

春日山蒔絵箱 江戸時代・正保3年(1646) 法華経寺蔵

日本の絵画

西洋画法と東洋画法の融和 鷹見泉石像

渡辺華山(一七九三—一八四二)は、江戸時代後期に活躍した画家です。画家といっても身分は武士で、田原藩(愛知県)の江戸詰家老という大役も勤めました。華山は絵については谷文晁らに学んで、西洋画法を取り入れ、独自の画法を確立しました。ここに描かれている鷹見泉石は、古河藩(茨城県)の江戸詰家老で、華山にとっては蘭学の先輩にあ

10月13日(水)〜11月21日(日) 本館8室

たります。この作品で華山は、たとえば顔の部分に、立体感を表す西洋の陰影技法を軽い調子に変えて取り入れています。このように西洋画法を東洋の伝統的画法に融和させながら取り入れているという点で、鷹見泉石像は華山の肖像画を代表する傑作といつてよいでしょう。

(救仁郷秀明)



●鷹見泉石像(部分) 渡辺華山筆
江戸時代 天保八年(一八三七)
陰影法による写実的な顔の描写に注目

日本の絵画

月を詠じる元暁 華厳宗祖師絵伝 元暁絵

11月23日(火・祝)〜12月26日(日) 本館2室 国宝室

「華厳宗祖師絵伝」は、『宋高僧伝』中、2人の新羅華厳宗の祖師伝に取材した「義湘絵」と「元暁絵」という2つの絵巻からなっています。画風や詞書きの書風の違いから元來別々に制作され、何らかの形で高山寺の明恵上人が関わったと考えられますが詳しい制作背景については特定されていません。

今回展示するのは、元暁絵巻上のうち元暁の飄逸な振る舞いを描いた

段。特に、白砂青松の中、画中詞に「月を詠じたまふところ」と記された場面は詞書きにも伝記にも見られない絵伝だけのもの。これには月を詠じた歌を多く残した明恵上人が重ねられていることが指摘されています。制作者がどんな思いを込めてこの場面を挿入したのか想像を膨らませるのも楽しいのではないのでしょうか。

●華厳宗祖師絵伝 元暁絵 巻上(部分)
鎌倉時代・13世紀 京都・高山寺蔵
元暁が浜辺で月を詠じる場面。大ぶりで素朴な描写と淡い彩色が独特な画趣を生み出している



伝統工芸

工程見本や道具に見る技術記録 特集陳列「伝統工芸 技の世界を探る」

11月30日(火)〜2005年3月6日(日) 本館19室

昭和二十五年(一九五〇)文化財保護法が制定され、有形文化財とともに伝統工芸の技術を含む無形文化財を保護することが定められました。昭和二十七年には、「助成等の措置を講ずべき無形文化財」の第一次選定が行われ、優れた伝統工芸の技を後世に伝えるための技術記録の作成が始まりました。昭和二十九年文化財保護法の一部が改正され、重要無形文化財の指定・認定制度が確立し、あらためて技術記録の作成も定められています。

今回は当館に移管された伝統工芸作品の中から、漆工、陶磁、金工、七宝の技術について、技術見本として作られた資料、まとめられた記録、さらにそれにあわせて作られた作品などを展示し、伝統工芸の技の世界を探ります。

(伊藤嘉章)

血鏡 芙蓉 絵師 今泉 右衛門 門作
12代 今泉 右衛門 門作
昭和30年(1955)
この作品をはじめ、七宝や蒔絵、布目象嵌、存星の作品に関する技術記録を展示



特集陳列「元禄時代と忠臣蔵」

11月23日火・祝 12月26日(日) 本館16室

元禄時代は、経済が発展して、町人が文化の主な担い手となり、劇場・出版などのマス・メディアの成立とともに、多くの学者や文化人が輩出しました。武士も命がけで戦闘する必要がなくなり、先例通りに物事が行われるようになっていたのです。

こうした中で、大石内蔵助などの浪士たちが吉良上野介を討ち取った事件は、人々に大きな衝撃を与えました。しかし、法秩序に抵抗して乱暴をはたらく無頼のかぶき者が大勢検挙され、有名な「生類憐みの令」が出されたのもこの時代です。なぜ忠臣蔵

は、歌舞伎や物語の題材となつて長く語り継がれてきたのでしょうか。展示では、「赤穂義士絵巻」をはじめ、忠臣蔵を生んだ時代背景や、事件に対する諸人の評判などもご紹介しします。(高橋裕次)



赤穂義士絵巻 江戸時代・19世紀
浅野内匠頭の刀を僧が箒でたたき落とす場面

冥界へいざなう造形美 特集陳列「装飾須恵器の世界」

12月14日(火) 2005年1月30日(日) 本館特別4室

六世紀ころ、横穴式石室と呼ばれる墓が日本各地につくられるようになる。そこには葬送用の道具として特殊な発達をした装飾須恵器が数多く副葬されました。日常生活には必要のない小さな器を斜めに多数貼りつけたものや、人・動物などをかたどつた小像を伴つたもの、特殊な形をしたものなどを総称して装飾須恵器と呼んでいます。特に小像付きの装飾須恵器は、鹿獬や猪獬、何らかの儀式、相撲をする人びとなどさまざまな場面を表現しています。写真



子持装飾付脚付壺
兵庫県竜野市中垣内出土
古墳時代・6世紀
二艘の船とたくさんの鳥を配した
珍しい装飾須恵器

の須恵器は全国的にみても珍しい船の小像を貼り付けたものです。この特集では、平成十六年度考古資料相互貸借事業での借用資料を含

め、当館の関連資料をまとめて展示いたします。それぞれの須恵器の生き生きとした造形をご覧ください。(日高慎)

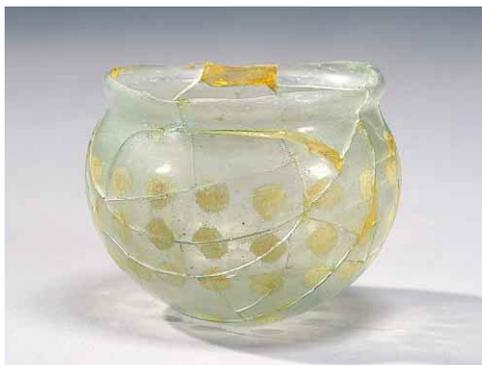
遥か西方からのガラスの道 考古 ガラス碗

12月19日(日)まで 平成館考古展示室

奈良県橿原市の新沢千塚二二六号墳は、長辺約二メートル、短辺約十六メートルほどの長方形の古墳です。日本列島では類例の少ない金製装飾品や熨斗など多数の副葬品が出土しました。ガラス碗は濃紺色の高台付ガラス皿の上に載せられた状態で収められていました。

このガラス碗は「カット」ガラスと呼ばれるもので、円文をカット技法で削りくぼめて五段に配置し、底部付近にも一重に円文を配しています。このようなガラス碗はイラン

やイラク、中国などで出土しており、ササン朝ペルシャのガラス技術でつくられたと考えられます。同種のガラス容器は、伝安閑陵古墳(大阪府羽曳野市)出土および正倉院中倉の円形切子碗、京都市上賀茂神社および福岡県沖ノ島八号遺跡の浮出円形切子碗などが知られています。ユーラシア大陸を通じてもたらされたガラス碗をじっくりご覧ください。(日高慎)



ガラス碗
奈良県橿原市新沢千塚126号墳出土 古墳時代・5世紀
ほぼ透明なガラス碗で表面に円形切子を施している

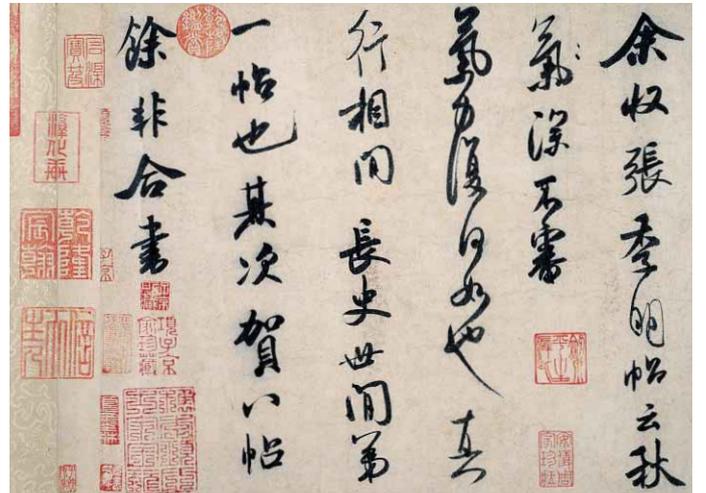
米芾その人を知る貴重な資料 特集陳列「中国書画精華」

後期11月2日(火)~11月28日(日) 東洋館第8室

毎年、秋爽の好期に開催する「中国書画精華」、書跡は前後期を通して唐から清時代の作例を紹介します。北宋時代には、中国書法史上もっとも個人的な大家が輩出しました。数々の奇行で知られる米芾もその一人。行書三帖巻は、書跡収集家としての米芾の素顔を伝える貴重な資料でもあります。同時代の黄庭堅が加筆訂正した王聖俞氏草書稿巻は、加筆訂正の跡が著しい数少ない草稿本。気負わない筆致に、黄庭堅平生の書風が窺えます。絵画の後期は、

- 因陀羅筆 寒山拾得図、伝石恪筆
- 二祖調心図、伝趙鳳筆 竹虫図、李在筆 山水図、呂紀筆 四季花鳥図(秋)、文伯仁筆
- 四万山水図などを展示します。宋・元・明の作例から選りすぐりの名品をご覧ください。

(富田 淳)



行書三帖巻より「張季明帖」 米芾筆 北宋時代・11~12世紀
米芾自身が入手した張旭の作品を、張旭の最高傑作と自慢している

法隆寺宝物館

稀少な古代の真鍮製品

脚付鏡

通年展示 法隆寺宝物館第5室



脚付鏡
奈良時代・8世紀
古代の数少ない真鍮製であることが
新たに判明した鏡

ぶつくとしたやや縦長の球形の蓋と身からなる合口造の鏡で、頂部に宝珠形の鈕があり、身底にはラッパ状に広がる脚を銜留めています。このような形

の鏡は、正倉院宝物にもあり、また朝鮮半島からも出土しています。塔の相輪をかたどった塔鏡と同じように、香をいれる容器あるいは舍利を納める容器に用いられていました。法隆寺献納宝物は毎年テーマを決めて、詳細な作品調査を行っています。この鏡は、それまで響銅(銅と錫の合金)製といわれていたのが、真鍮(銅と亜鉛の合金)製であることが判明しました。古代の真鍮製品は同じ献納宝物の鶴尾形柄香炉や正倉院宝物の黄銅台子(黄銅)が知られているほどで非常に少なく、新たな作例として注目されます。

(原田一敏)

数奇な運命

庭園茶室 六窓庵

この駄文が目に留まるころは庭園の紅葉がうつくしいハーマニーを奏でていることでしょうか。ずいっと昔に「帝大生のころ口がな上野にきては、あのお庭の木陰で本をむさぼり読んだものだヨ、それは静かなものだったサ」という回顧談を耳にしたことがあります。静寂が博物館の良さとして認められていたころのことですね。そんな静けさは今は求むべくもありませんが、それでも庭園の散策はいしれぬ安らぎをみなさまに与えてくれると思います。

このお庭の一角に六窓庵が移設されているのはよく知られています。金森宗和が作ったというこの茶室は、奈良興

福寺境内で朽ちていたものを、社寺宝物取り調べで赴いた町田久成の目にかけられ、明治九年、東京に移送されますが、途中、伊豆で暴風雨にあい流失してしまつたのです。現在の六窓庵はわずかに残つた木材に新しい材を補つて再建したものです。町田は六窓庵再建にあたり、当時職員であつた古筆(こひつ)に命じて待合などの付属建物や露地などを新たに設計させ、そして古い石仏を手水鉢などに利用しました。さらに町田は、この茶室の一角を寛永寺の庭園を偲ぶよすがとして草木一本動かすことを禁じました。

それからずいぶんと時が流れました。古筆が設計した六窓庵はそのままですが、周辺の景観は大きく変化しています。町田はこうした変化をどう見ていたかわかりませんが、れど、どうもこの茶室は数奇な運命に遊ばれているかのようです。

(上野仁哉)

散歩 11



六窓庵(庭園は10月26日から11月30日に公開されます)

博物館ってどんなところ？

宝もの編

11月9日(火)~12月26日(日) 平成館1階企画展示室



博物館は宝ものだらけ

博物館にある宝ものは国宝や重要な文化財だけではありません。有名でなくても指定品マークがついていないから集まった、歴史や文化を伝えるたいせつな宝ものです。博物館にはどんなものがあるの？ どうしてこれがないの？ 博物館で一番大きなものは？ 小さいものは？ どれだけの数があるの？ 博物館にある文化財について、みなさんのそんな疑問にお答えします。

昔の人の宝もの

昔の人が宝ものと考え、たいせつにしてきたものを紹介します。土の中から出てきたものや、古い家に伝わってきた子どものおもちゃなど、今のあなたにとっては、宝ものと思えないものもあるかもしれません。どうしてその時はたいせつに思われたのでしょうか。どのように伝わって、博物館におさめられたのでしょうか？

これも宝もの？

どうして博物館にこんなものがあるの？ どうしてこれが宝ものなの？ といった名品・珍品を紹介します。また、みなさんが身近に集めているようなものも紹介します。上野公園でみつかった呪いのわら人形、昔の世界の切手、はがきなど、博物館によくいらっしやる方でも初めてみるものがたくさんあるかもしれません。

宝ものになったもの

博物館にあるものは、最初から宝ものだったものばかりではありません。本来の姿から誤解されて伝わっていたり、価値のないものだと思われていたりしていたものが、研究によって本当の価値がわかり、初めて「文化財」という宝ものになるものもあります。たとえば「あずき洗いはばあ」と呼ばれて、気味悪がられていた木の像は、研究の結果、エラスムスという人の像であることがわかり、日本とオランダをつなぐたいせつな文化財になりました。実物を見て、あなたはどつ感じますか？



エラスムス像
オランダ・1598年 栃木・竜江院蔵



ワークショップに参加しよう！

「博物館の宝ものにしよう」(自由参加)

日常の身のまわりにあるものでも、ケースに入れて、タイトルの札をつけて置いてみると、博物館にある宝ものようになります。それはどうしてでしょう？ ケースや解説文のせい？ その答えは会場です。どうぞ、いろいろなもので試してみてください。

「1000年後に残したい宝もの」(自由参加)

あなたがたいせつに思っているもの、そして、1000年後の人たちにも伝えたいと思っているものは何ですか？ 現代の文化を未来の人たちに伝えるために、何を残したらいいですか？ 宝ものカードに書いて教えてください。

次回の親と子のギャラリー【予告】

仏像のみみつ

2005年1月12日(水)~3月6日(日)

仏像彫刻は、子どもや初めて見る人にはなかなかなじみにくいもの。この展示では仏像のとびきりののみみつをやさしく解説します。

同時開催の特別展「唐招提寺展」にもリンクしています。



ボクが案内するよ

教育普及事業のお知らせ 高校生講座

高校生を対象に、日本美術の講座を開催します。

第1回 12月18日(土) 14時~15時(60分間)

「大仏のはなし - 修学旅行を100倍楽しむ - 」

上席研究員 松浦 正昭

第2回 2005年3月30日(水) 14時~15時(60分間)

「むかしきもに見る、女性のファッションと生活」

列品室研究員 小山弓弦葉

会場：平成館小講堂 参加費：無料

定員：各回30名(事前申込、先着順)

【申込方法】

A. 官製往復はがき
往信用裏面に(名前・ふりがな) 住所 電話番号 希望する講座、返信用表面に住所、氏名を記入して下記申込先までお送りください

B. ファクシミリまたは電子メール
名前(ふりがな) 住所 電話番号 希望する講座を記入して、下記まで送信してください

申込先：〒110-8712 台東区上野公園13-9 東京国立博物館
教育講座室「高校生講座係」

Fax：03-3822-3010 電子メール：edu@tnm.jp

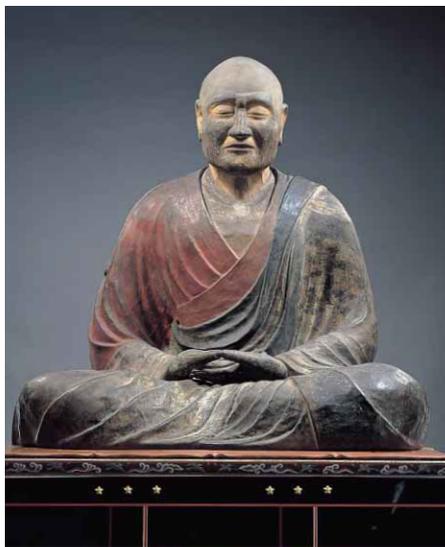
唐招提寺展 国宝 鑑真和上像と盧舎那仏

金堂平成大修理記念

巨大な盧舎那仏像を中心に梵天・帝釈天像と四天王像を配した金堂。肖像彫刻の傑作鑑真和上像を、東山魁夷の障壁画が包み込む御影堂。奈良の巨刹・唐招提寺の金堂並びに御影堂の美しく壮大な空間が平成館に再現されます。



●盧舎那仏坐像(部分) 脱活乾漆造 奈良時代・8世紀 奈良・唐招提寺蔵 乾漆像の大作で、確かな存在感を示す。鑑真とともに来朝した弟子義静の造立と伝えられる c大西成明



●鑑真和上坐像 脱活乾漆造 奈良時代・8世紀 奈良・唐招提寺蔵 鑑真のあるがままの姿を伝える肖像彫刻の名作 c金井杜道

金堂平成大修理記念
唐招提寺展 国宝 鑑真和上像と盧舎那仏
2005年1月12日(水)~3月6日(日) 東京国立博物館平成館

主催：東京国立博物館 唐招提寺 TBS 日本経済新聞社
協力：奈良国立博物館 日本通運 凸版印刷 JR東日本
後援(予定)：文化庁 奈良県 TBSラジオ
観覧料：一般 1400円(1300/1200円)、大学生・高校生・専門学校生 1000円(900/800円)
小・中学生 無料

* ()内は、前売り/20名以上の団体料金です。
* 障害者とその介護者1名は、無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください。

唐招提寺は日本に正式の戒律を伝えるため、十二年にわたるさまざまな困難をのりこえて来朝した中国・唐の高僧鑑真和上によって創建されました。長い困苦の末、盲目の身になりながらも不屈の精神で来朝した鑑真と、真の伝戒の師を招く使命感に燃えた日本の留学僧栄叡と普照の生き方は、時代を超えて多くの人々を感動させてきました。

本展覧会は奈良時代を代表する建築として名高い同寺金堂の平成大修理を記念して開催され、金堂と御影堂の堂内再現を二大コンセプトとして展示が構成されます。金堂再現では、盧舎那仏像を中心に梵天・帝釈天像と四天王像を配し、天平の造形空間を実感していただきます。御影堂再現では肖像彫刻の名作鑑真和上像とともに、東山魁夷の障壁画の全点展示を行います。この障壁画は構想から十年の歳月をかけ、丹精を込めて完成されたもので、魁夷芸術の集大成であると同時に、現代に生きる鑑真への敬慕の象徴ともいえます。

鑑真の崇高な精神を今に伝える唐招提寺の名宝が、無言の中にも現代人に語りかけるさまざまなメッセージを、静かに受けとめる機会になればと思います。

(山右佐光晴)

2005年
お正月は
博物館に初もうで

1月2日(甲)~1月30日(日)

毎年ご好評をいただいている、お正月企画 博物館に初もうで「もはやいもので、2005年1月で3年目を迎えます。来年も正月2日から開館し、新年を寿ぐ作品や吉祥を願う作品の展示と日本の伝統を伝える楽器の演奏、芸能などで、新しい年を祝います。

2005年の干支は酉。本館では、来年の主役、鶏はもちろん瑞鳥としてさまざまな作品のモチーフになっている鳳凰などの作品を集めた特集陳列を行います。

イベント等のスケジュール詳細は当館のウェブサイトをぜひ。本誌の次号でお知らせします。ぜひ、お正月は家族揃って上野にお出かけください。





◆11室(彫刻)の照明プランの検討。光を当てる角度を変えて効果を見る



◆2003年10月 展示室内レイアウトの検討。本館の100分の1の模型を使って行った



◆オープニング当日。池坊・蔵重伸氏らによるいけばな飾り。オープン初日から2週間リニューアルを彩った



ようこそ！
博物館の舞台裏へ

第2回

「本館リニューアルの四〇〇日」

9月1日にグランド・オープンした本館。昭和十三年(一九三八)に現在の本館が開館して以来の大改装、ご感想はいかがですか。昨年の第一弾リニューアルを終えてからの秋新しい本館の展示がオープンするまでの四〇〇日を島谷展示課長が語ります。

楽しくわかりやすく 基本方針

東博の平常展では、常時約二七〇〇件の作品を展示、中には国宝や重要文化財も数多くあります。平常展は東博の根幹であり、これをいかに多くの人に楽しんでいただくようにできるかが当館にとっての長年の大きな課題でした。そのため、絵画や書など分野ごとに展示してきた構成を見直し、2階を時代別にしたのが、昨年7月のリニューアル第一弾でした。

今回の大リニューアルは、各分野の研究者とデザイン等事業担当の研究者、施設管理や警備担当職員も参加し、全館を挙げて取り組んだ大事業です。まずは第一弾リニューアルについての来館者アンケート結果の分析から始まりました。

展示については、来館者の大多数から時代別になってわかりやすい」とご好評をいただいたことから、時代別の部分は継続し、より見やすくわかりやすくするという方針が決まりました。一方、作品数、特に絵画や書が減ったのではないかと、という声が寄せられたので、好きな分野をじっくり見たい人のための展示が、もう

一つの課題となりました

時代別展示、日本美術の流れ」では、各時代を表すテーマを設定しました。外国の方など日本の美術・文化になじみのない方にとっては、時代、として作品を並べるだけではわかりづらいと思われる。例えば「禅と水墨画」といえばそこで表現される世界がイメージできるでしょう。

より多くの作品を見たいという来館者のためには、企画展示の部屋を設けることにしました。これは、単に出品数を増やすためだけではありません。今回の「日本美術の流れ」のようにテーマを設けた時代別の展示では、時代を代表するテーマにそぐわないが、ちょうど面白というような作品を出しづらくなる面があります。独自のテーマを設定できる企画展示の部屋は、より多様な作品を紹介する場となります。今後、各研究員の研究成果を生かせる展示や季節にあわせた特集展示も行う予定です。

ところで、実際に本館で展示されている作品の数ですが、リニューアル前と昨年の第一弾リニューアルの頃は五四〇件程度だったのが、今回の大リニューアルで六〇〇件に増えましたので、ご安心を。

いつも新しい出会いを

作品選定

当館では、作品保護のため浮世絵版画は四週間、書画は六週間に一回など定期的に展示替えをします。目玉となる作品を常設し、いつも××が見られる「よつにはできないかわりに、何度来ても違った名品に出会う楽しみがある」と言えます。そこで作品選定にあたって、まずはテーマにあわせて見どころとなる主な作品を選び、それを来年の3月までの各展示期間にあてはめることから始めました。主要作品がある時期だけにかたよらないよう長い期間を念頭に置いた展示計画を立てたのです。

時代別展示で展示する作品を選んでも年間のスケジュールを組んでみると、当館収蔵品で充実している時代・分野とそつでないところが見えてきました。本物の作品で日本美術の流れを見せるという展示は、豊富な収蔵品を持つ東博にしかできないことだと思います。とはいえ常に一級クラスの作品を揃えるのは困難です。特に、飛鳥・奈良時代の重要な作品の多くは、お寺などのご所蔵です。収蔵品では足



◆2004年6月 インフォメーションカウンターの位置検討。来館者にとって便利な場所へ



◆2004年5月 題箋検討会。大きさは、書体の違うものを並べてどれが一番見やすいかを選んだ

◆候補となったさまざまな色と大きさの題箋



ご案内 展示課長 島谷 弘幸



2004年7月 1階から2階へのケース移動、パランスを見ながらクレーンで少しずつ吊り上げた



2階3室リニューアル改装前(右写真)この細長い空間を門型を使って区切り、コーナーごとのメリハリをつけた(左写真)



2004年7月 記者懇談会。リニューアルについて活発な意見が



2004年7月 11室工事風景。寺院のイメージの空間とするため柱と梁が

りない時代・分野を補うための購入や寺社等からの寄託、または今あるものの修理など、館の収集活動や修理の方針が明確になりました。

見やすく快適な空間に 展示デザイン

展示作品の選定と同時に各時代、各分野をどの程度のボリュームでどこに配するか、学芸担当の연구원と展示デザイン担当の연구원で検討しました。壁面やケースの色、サインのデザイン等空間のデザインは展示デザイン担当が中心となりました。特に照明については、最も効果的な展示シーンを作るためさまざまな実験を重ねました。

「部屋が暗い」という意見はよくありますが、作品保護上強い明かりを長時間あてられません。そこで、天井の間接照明により、部屋全体を明るくしました。また、浮世絵版画の展示は光ファイバーを使っているので熱線を出さずに照明効果をあげています。

展示室の構造上、展示できる作品の種類が自ずと限られてしまう場合もありました。例えば、縦に細長い2階の3室と8室にある壁に造り付けのケースには、平面または奥行きのない小さい作品しか並べられません。細長い空間は門型で区切ったり、ケース内に仕切りを入れたりしてイメージにメリハリをつけています。また、本館は天井が高いので、各ケースの色を変え、小さな作品を展示するところはマスキングをするなど、高さが気に

ならず作品鑑賞に集中出来るようにしました。

また、来館者からの作品解説ラベル(題箋)の文字が小さいという声にこたえるために、題箋の形状や色、置き方を変えました。これは、数種類のサンプルを作り、今年の5月、休館日に実際に作品の前に置き、二回にわたってアンケートを実施。館職員およびボランティアさん一〇〇名以上から得た回答の結果をふまえたものです。

作品保護と展示効果

環境実験

1階の最初の部屋に木彫作品を展示するにあたって、外気が始終入ってくる入口に近い部屋での環境が懸念されました。そのため、今年2月に湿度と温度の変化を測る環境実験をしました。その結果、これまで彫刻を展示していた8室も現在の11室もそれほど数値が変わらないことがわかりました。しかし、万全を期すため入口に近い場所は比較的小さい像を展示ケースに入れてより近くで鑑賞できるように展示し、ガラスの板で「T」を区切った後ろには大きめの作品をケースなしで展示して、外気の影響と展示効果を考えた展示にしました。

7~8月 撤収・設営・展示

そして夏、7月からは本館を閉館し、いよいよ改装作業に入りました。作品を収蔵庫におさめ、次に部屋に残った空のケースを新しい展示場所に

移動しました。圧巻だったのは1階にあった吉芸用の幅広いケースをクレーンで吊り上げ2階に運んだ作業。これは、経験者を積んだ運送会社の専門作業員なしには実現しなかつたでしょう。

7月半ばをすぎると展示室内の壁面塗装と室内の内装工事が急ピッチで進められました。移動したケースを補修、清掃、クロスの貼り替え、あるいは新しいケースを製作し、それぞれの展示シーンにあわせた内装工事が大方終わりは8月のお盆をすぎた頃でした。壁面やケースの塗装による臭気抜き、乾燥にも十分な時間をとりました。この夏の猛暑の中、汗を流しひたすら作業を続けた作業員の皆さんは本当に大変でした。

作品を展示する作業は実質五日間で行いました。その後照明の調整や椅子などの配置、作品展示の微調整を終えたのはまさにオープンの前日、報道向けの内見会の直前。その後さらに照明などの調整や案内看板の設置が深夜まで続きました。

こうして9月1日、無事グランドオープンを迎えました。みなさんに「やちと開いてよかったですね」と言われますが、我々にとってはこれからは正念場です。生まれ変わった後も、来館者の要望を受けて解説を追加したり、次回の展示替えや、来年度の展示計画の作成などさまざまな準備をしています。ぜひ何度も来館して日々成長する本館を末永くお楽しみいただきたいと思います。

(構成 鬼頭智美)



展示ケースのメンテナンス



2004年8月 展示作業。厳しい日程の中、作品一点一点が慎重にならべられてゆく



オープン前日 いけばなの手直し作業

コンサートのお知らせ

バロック音楽の夕べ

日時 11月13日(土) 19時開演
 場所 東京国立博物館 表慶館
 演奏 サイモン・スタンデジ 中野振一郎
 主催 東京国立博物館、日本テレマン協会
 曲目 J.S.バッハ：
 ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ ほか
 料金 5000円(平常展観覧券付) 140席全席自由

ピアノで綴る近代文学散歩『森鷗外編』

～ 講談とピアノのコラボレーション～

日時 11月29日(月)
 (昼の部)14時開演 (夜の部)19時開演
 場所 東京国立博物館 本館特別5室
 出演 旭堂南佐衛門(講談) 高田泰治(ピアノ)
 主催 東京国立博物館、日本テレマン協会
 曲目 エリック・サティ：ジムノペティー ほか
 料金 2000円(平常展観覧券付) 各200席全席自由

クリスマスコンサート

日時 12月4日(土) 18時開演
 12月4日のみ金田賢一氏出演
 12月6日(月) 14時開演
 場所 東京国立博物館 本館特別5室
 出演 テレサ・セイデル(ソプラノ)
 ジョン・ファ・ガソン(ピアノ)
 主催 東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
 曲目 「一晩中踊りあかそう(マイフェアレディーより) ほか
 料金 5000円(平常展観覧券付) 各日250席全席自由

チケットのお求め方法

当館正門観覧券売り場でチケット販売

受付 開館日の9時30分～閉館30分前(月曜休館)

電話予約販売

申込先 東京国立博物館イベント担当 TEL 03-3821-9270

受付 9時30分～17時(月曜日～金曜日)

*チケットは、当館正門観覧券売り場にて現金引き換えにてお渡しします

引換時間 開館日の9時30分～閉館30分前(月曜休館)

各イベントの詳細は、東京国立博物館イベント担当(03-3821-9270)

または、当館ホームページでご確認ください

お車でのご来館はご遠慮ください

東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、当館を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修理調査研究 平常展・施設整備等の充実に充てております。どうか賛助会の趣旨にご理解ご賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

年会費
 特別会員 100万円以上
 維持会員 法人 20万円
 個人 5万円

特典
 特別展の特別内覧会にご招待
 国立博物館ニュースの送付
 * 賛助会員のお申し込みは随時受け付けています。
 * ご希望の方には資料および東京国立博物館賛助会員(12M Members)入会申込書をお送りします。
 * お問い合わせは
 東京国立博物館営業開発部
 賛助会担当
 03 3822 1111(代)

東京国立博物館賛助会員 2004年9月30日現在

特別会員

- 日本電設工業株式会社 様
- 東京電力株式会社 様
- 株式会社コア 様
- 明治安田生命保険相互会社 様
- 株式会社 精養軒 様
- 毎日新聞社 様
- 大日本印刷株式会社 様
- 株式会社 大林組 東京本社 様
- 朝日新聞社 様
- 株式会社 ホテルオークラエンタープライズ 様
- 株式会社 ミロク情報サービス 様
- TBS 様
- NHK 様
- 東京新聞・中日新聞社 様
- 株式会社 電通 様
- 読売新聞東京本社 様
- クラブツーリズム株式会社 様

維持会員

- 三菱電機ビルテクノサービス株式会社 様
- 早乙女 節子 様
- 株式会社 三冷社 様
- 宇津野 和俊 様
- 伊藤 信彦 様
- 小金井造園株式会社 様
- 財団法人ソニー教育財団 様
- 株式会社 NTTドコモ 様
- 齋藤 京子 様
- 井上 萬里子 様
- 田添 博 様
- 京東匠 鶴屋吉信 様
- 株式会社 東京美術 様
- 服部 徳次郎 様
- 鏡内 匡人 様
- 岩沢 重美 様

- 高田 朝子 様
- 齋藤 京子 様
- 齋藤 邦裕 様
- 株式会社 安井建築設計事務所 様
- 株式会社 ナガホリ 様
- 井上 静男 様
- 和田 喜美子 様
- 佐々木 芳絵 様
- 藤原 紀男 様
- 小田 昌夫 様
- 吉岡 昌子 様
- 松本建設株式会社 様
- 関谷 徳衛 様
- 高橋 守 様
- 小澤 桂一 様
- 株式会社 光彩工藝 様
- 上久保 のり子 様
- 寺本 明男 様
- 榎田 良豊 様
- 株式会社 スタイルカフェ・ドット・ネット 様
- 長谷川 英樹 様
- 池田 孝一 様
- 木村 剛 様
- 観世 あすか 様
- コクヨ株式会社 様
- 星埜 由尚 様
- 関口 大志 様
- 株式会社 鴻池組 東京本店 様
- 株式会社 アクタス 様
- 林 宗毅 様
- 安田 敬輔 様
- 久保 順子 様
- 渡辺 章 様
- 稲垣 哲行 様

ほか7名3社、順不同

秋の庭園開放のお知らせ

10月26日(火)～11月30日(火)本館北側の庭園を公開します。燃え立つような銀杏の黄、池の水面に映るもみじの赤をお楽しみください。東洋館レストランコール脇から入園いただけます。公開時間は10時～16時です。(入館料が必要です)

東京国立博物館ハンドブックを20名様にプレゼント
 本館(日本ギャラリー)のリニューアルを記念して出版したハンドブックを抽選で20名様にプレゼントします。本館、東洋館をはじめとする各展示館の展示ガイドはもちろん、建築や庭園についての解説、東博所蔵の国宝一覽も掲載。東博をもっとよく知っていただくためのガイドブックです。ご希望の方は、はがきに住所・氏名(ふりがな)・男女・年齢・職業ならびに、この号でいちばん面白かった企画をご記入の上、左記までお送りください。

〒110 8712

台東区上野公園13 9

東京国立博物館 広報室

ハンドブックプレゼント係宛



東京国立博物館ハンドブック 500円

東京国立博物館友の会 & パスポート

友の会 年会費 1万円 発行日から1年間有効
特典 東京・京都・奈良国立博物館3館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送や、友の会対象のイベント・講演会の開催などさまざまな特典があります

パスポート 一般 3000円 学生 2000円
 発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良国立博物館3館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、各1回計6回までご覧いただけます

お申し込みは当館の窓口あるいは郵便振替で友の会

加入者名(振替先) 東京国立博物館友の会
口座番号 00160-6-406616
金額 1万円
 *振替用紙には職業・年齢・性別・メールアドレス・ご希望のプレゼント番号(下記 ~ の中からお選びください)を楷書でご記入ください
 双筆箋『秋冬山水図』 双筆箋『夏秋草図屏風』
 一筆箋『見返り美人図』 クリアファイル&浮世絵ボールペン

パスポート
加入者名(振替先) 東京国立博物館パスポート
口座番号 00120-3-665737
金額 一般3000円、学生2000円

*振替用紙には申込区分(一般か学生)、学生の場合は学校名および学生証番号を楷書でご記入ください
 *振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートチケットが届くまで保管しておいてください
 *振替手数料はお客様の負担となります
 *郵便振替でのお申込には2週間かかります

お問い合わせ
 TEL 03-3822-1111(代) 友の会・パスポート担当

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期郵送をご希望の方は、年間(6冊分)1000円の送料・事務費のご負担でお届けします

お申し込みは郵便振替で
加入者名(振替先) 東京国立博物館ニュース
口座番号 00100-2-388101

*振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を楷書でご記入ください
 *お申し込みは1年ごととなります。複数年のお申し込みは受けられませんのでご了承ください
 *振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください
 *振替手数料は申込者のご負担となります
 *次号より送付ご希望の場合、締め切りは12月10日です

東京国立博物館利用案内

開館時間 : 9時30分~17時、4月~11月の特別展開催期間中の金曜日は20時まで、4月~9月の土・日・祝・休日は18時まで(入館は閉館の30分前まで)

休館日 : 毎週月曜日(祝日、休日の場合は翌日)、年末年始(12月28日~1月1日)、ゴールデンウィークおよび夏休み期間(7月20日~8月31日)は原則として無休

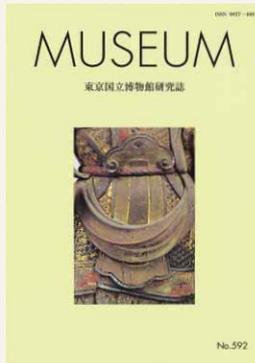
平常展観覧料金
 一般420(210)円、大学生130(70)円
 *()内は20名以上の団体料金
 *障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください
 *満65歳以上、および高校生以下の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください

お客様サービス係の制服が新しくなりました!
 9月1日の本館(日本ギャラリー)リニューアルを機にもつと新しくなったものがあるのにお気づきですか? そう、お客様のご案内や館内の警備を担当する職員(とくは)の制服は濃紺の軽やかなイメージのスーツに、東博のロゴマークTNMをあしら



が新しくなりました。男性の制服は濃紺の軽やかなイメージのスーツに、東博のロゴマークTNMをあしらった帽子。女性も濃紺のさわやかかつ落ち着いたイメージのスーツ。アクセントに東博オリジナルのスカarfをつけています。展示空間と調和し、より親しみやすく感じただけの事を目指した制服リニューアルです。皆さんの感想はいかがですか?

『MUSEUM』592号
 (平成16年10月15日発行)の掲載論文
 「忘れられた寺 伊賀財良寺と比売朝臣額田王」 大脇 潔(近畿大学教授)
 「永祿政変後の室町幕府政所と撰津晴門・伊勢貞興の動向」 東京国立博物館所蔵 古文書 所収三淵藤英書状を題材にして 高梨真行(当館教育講座室研究員)
 「川端家寄贈の毘沙門天立像」 岩佐光晴(当館図書・映像サービス室長)
 *購読のお問い合わせは 当館ミュージアムショップ 03 3822 0088まで



Who's Who in 東博



世界最古の遺品を後世に

環境保存室長 澤田むつ代

飛鳥・奈良時代の染織品(上代裂)を研究、あわせて法隆寺献納宝物の染織品の修理も行っていきます。旧法隆寺宝物館で、法隆寺献納宝物の染織品を公開するにあたり、展示できるように修理をする下準備の仕事は非常勤職員として始めました。美大生の頃は糸を染め、機を織って自分で布を制作していました。こんな模様を織ってみたい、と思い調べてゆくうちに上代裂に行き着き、この分野の研究をはじめました。平成十三年(二〇〇一)にこれまで行ってきた調査研究の成果を大成した『上代裂集成』という本を出版、翌年に文学博士号の学位を取得しました。最近、ほとんど未開拓の古墳から出土した鉄器など考古遺物に付着する織土の素材や用途の研究を行っています。鏡や遺体を包んだり、埋葬する時に上にかけたりする織物を調べることで、当時の埋葬方法がわかるのです。七世紀から八世紀に制作された法隆寺献納宝物の染織品は、伝世品としては世界最古に属します。これらを後世に安全な状態で伝えることが自分の使命だと思っています。

1 MON	休館日
2 TUE	列品解説「紙と修復」14:00 本館特別3・4室
3 WED	14:00 14:30 15:00
4 THU	14:00 14:30
5 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:00 14:30
6 SAT	留学生の日(留学生は平常展無料) 14:00 14:10 14:30 15:00
7 SUN	14:00 14:30
8 MON	休館日 NEC古楽レクチャーコンサート ルネサンス歌物語~音楽と言葉~ 14:00,19:00 平成館ラウンジ
9 TUE	「博物館ってどんなところ? 宝もの編」 列品解説「科学の目で見る文化財」14:00 本館特別3・4室
10 WED	14:00 14:30 15:00
11 THU	14:00 14:30
12 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:00 14:30
13 SAT	講演会「慈雲の生涯と思想」13:30 平成館大講堂 14:00 14:10 15:00 1 パロック音楽の夕べ 19:00 表慶館
14 SUN	14:00 14:30
15 MON	休館日
16 TUE	列品解説「作品のオリジナリティについて」14:00 本館特別3・4室
17 WED	14:00 14:30 15:00
18 THU	14:00 14:30
19 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:00 14:30
20 SAT	座談会「博物館の環境を守る」13:30 平成館大講堂 14:00 14:10 14:30 15:00
21 SUN	14:00 14:30
22 MON	休館日
23 TUE	「ようこそ! 保存と修理の現場へ」13:30 資料館セミナー室 台東区伝統工芸職人展
24 WED	列品解説「書画の表具裂」14:00 本館特別3・4室 14:30 15:00
25 THU	14:00 14:30
26 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:30
27 SAT	14:00 14:10 15:00
28 SUN	台東区伝統工芸職人展 最終日 「中国国宝展」最終日 14:30
29 MON	休館日 2 音楽&講談 ピアノで綴る近代文学散歩 14:00,19:00 本館特別5室
30 TUE	列品解説「長谷川等伯の鬼子母神」14:00 本館8室

1 WED	14:00 14:30 15:00
2 THU	14:00 14:30
3 FRI	14:00 14:30
4 SAT	月例講演会「刀剣鑑賞入門」13:30 平成館大講堂 14:00 14:10 14:30 15:00 3 クリスマスコンサート 18:00 本館特別5室
5 SUN	14:00 14:30
6 MON	休館日 3 クリスマスコンサート 14:00 本館特別5室
7 TUE	列品解説「慈円筆願文について」14:00 本館3室
8 WED	14:00 14:30 15:00
9 THU	14:00 14:30
10 FRI	14:00 14:30
11 SAT	14:00 14:10 15:00
12 SUN	14:00 14:30
13 MON	休館日
14 TUE	列品解説「挂甲を着けた武人埴輪と古墳文化」14:00 平成館考古展示室
15 WED	14:00 14:30 15:00
16 THU	14:00 14:30
17 FRI	14:00 14:30
18 SAT	4 高校生講座「大仏のはなし」14:00 平成館小講堂 14:00 14:10 14:30 15:00
19 SUN	14:00 14:30
20 MON	休館日
21 TUE	列品解説「興福寺鎮壇具」14:00 本館1室
22 WED	14:30 15:00
23 THU	14:30
24 FRI	
25 SAT	14:10 15:00
26 SUN	「博物館ってどんなところ? 宝もの編」最終日
27 MON	休館日
28 TUE	休館日
29 WED	休館日
30 THU	休館日
31 FRI	休館日

- 👤 = ボランティアによる本館ハイライトツアー …… 場所: 本館2階
- 📖 = ボランティアによる浮世絵版画展示ガイド …… 場所: 本館2階
- 🏺 = ボランティアによる陶磁エリアガイド …… 場所: 本館1階
- 🗿 = ボランティアによる彫刻ガイド …… 場所: 本館1階
- 🌳 = ボランティアによる樹木ツアー …… 場所: 前庭内
- 👤 = ボランティアによる考古展示室ガイド …… 場所: 平成館考古展示室
- 👤 = ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド …… 場所: 法隆寺宝物館

1~3は事前申込制(有料)です。
お問合せは03-3821-9270(東京国立博物館イベント担当)または本誌14ページをご覧ください。
4は事前申込制です。詳しくは本誌10ページをご覧ください。
* 上記の予定は予告なく変更になることがあります。
当日の予定は、インフォメーションカウンターでご確認ください。

東京国立博物館 〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 TEL03-3822-1111(大代表) *ホームページ URL http://www.tnm.jp/ 独立行政法人国立博物館ホームページ URL http://www.natmus.jp/ 制作・印刷人株ONPアーカイブ・コム